令和6年9月24日 №05 特別号

笛南中だより

甲府市立笛南中学校
文責 校長 深澤光彦

全国学力・学習状況調査結果

令和６年度の全国学力・学習状況調査は、全国の中学３年生と小学校６年生を対象に、４月１８日（木）に実施されました。本年度は、例年どおり「国語」「数学」の２教科での実施となりました。また、生徒の生活習慣や学習環境等に関する「質問紙調査」についても例年どおり実施しました。調査の目的は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態等を明らかにすることにより、今後の指導改善に役立てることです。本校の分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。（この学校だよりは、笛南中 HP にも掲載いたします。）

本校の状況

本校の平均正答率は、「国語」「数学」とも全国・県平均と同等か上回っている項目がありますが、教科全体では「国語」「数学」ともに、全国・県平均を下回る結果となりました。

各教科の状況

国語

【分析結果】

・「知識・技能」の中で「我が国の言語文化に関する事項」は県・全国の平均正答率を上回ったが、他の「知識・技能」の項目および「思考・判断・表現」は県・全国の平均正答率を下回った。意見と根拠、他者の発言と自分の考え、文章と図、のように「何かと何かを結びつけて考えること」を苦手としている。また、「要点をまとめる（＝要約）」「自分の考えをまとめる」という力も不足している生徒が多い。

・短答式の問題は県・全国の平均正答率と同等かやや上回った。しかし、選択式と記述式の問題では、県・全国の平均正答率を下回っている。特に、記述式の問題では「考えて、自分の言葉で書く」という力が不足している生徒が多い。

【教科における主な改善点】

①毎週行っている漢字テストに加えて、小学校までの漢字や、古典に関する知識、表現技法、文法なども小テストや一人一台端末の有効なアプリを定期的に行い、知識の定着を図る。

②比べ読みの活動などを積極的に取り入れ、何かと何かを結びつけて思考する力を伸ばす。

③毎単元、自分の考えを表現する活動（書く・話す）を設けて、思考・判断・表現の力を伸ばす。

④週に１回、与えられた問題に対して自分の意見を書く時間を設け、書く力をつける。

数学

【分析結果】

・データの活用の説明問題が全国正答率を上回っている。１ヶ月前に学習した内容でもあるので、授業ではしっかりと理解している生徒が多い。

・数の性質を利用した説明問題も、全国平均と同程度の正答率であった。また、図形の証明問題で誤答となった生徒の中でも、「表現が十分でない」「証明の根拠が足りない（一部間違っている）」という生徒が多かった。なんとなく理解できるが、説明するための用語の理解が不十分である。

・正答率の低い「数と式」の分野では、文字を使って表したり、ｙについて解いたりする２問が県・全国を下回る正答率だった。中１で学習している内容であり、学習したことがきちんと定着していない。

・「関数」の分野は、選択式および短答式の問題では県・全国の正答率を大きく下回ることはないが、記述式の問題となると大きく下回っている。なんとなく理解しているが、知識・技能を応用して解答することができない生徒が多い。

【教科における主な改善点】
①学力が定着していないため、継続的に学習できるように取り組んでいく必要がある。知識と知識がつながるよう、過去の学習内容に戻ってつながりを伝えたり、まとめたりしていく。
②基礎基本ができない生徒が多いため、まずは簡単な問題でも“できる”ことを増やせるよう、個別最適な学びを積極的に取り入れていく。
③応用問題に粘り強く取り組みたくなるような教材、授業展開の工夫が必要である。グループワークを活用して、生徒同士で正解まで導いていけるような協働的な学びを意識して授業を行っていく。

質問紙調査の結果について

例年と同様に学校や家庭における学習や生活の様子について、７２の質問項目により実施されました。その結果から明らかとなった、本校生徒の特徴は以下のとおりです。

質問紙調査の主な特徴

【生活面について（生活習慣、夢や目標、学ぶ姿勢など）】
・朝食をほぼ全ての生徒が食べている。また、生活の中に運動する機会が多い生徒が県・全国の平均より高く、朝食をとる習慣に繋がっている要因の１つではないかと思われる。
・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」という問いでは、「相談できる・どちらかといえば、できる」が県・全国平均を上回っている。日常的な教員の配慮や声かけ、生徒との関係づくりによるものだと考える。
・学習において「自分で学び方を考え、工夫することはできているか」という問いでは、「できている・どちらかといえば、できている」が、県・全国平均を下回っている。授業での学習活動はできているが、生徒個人レベルで学習する場合、授業で学んだことが活用できていない現状が見受けられる。

【ICT 機器の活用や授業形式について】
・「１・２年生のときの授業でのＩＣＴ機器の使用頻度」について県・全国平均を上回っており、ＩＣＴ機器を積極的に活用した授業づくりがされていることがうかがえる。また、ＩＣＴ機器使用の効果を実感する項目でも、県・全国の平均を上回る結果となった。
・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」については県・全国平均を上回っており、学習に関して教員と生徒の良好な関係がうかがえる。
・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」では県・全国平均を下回っており、答えが容易に見つからない、自分で答えを導き出さなければならない課題に対しては、受け身になっている生徒の割合が高くなっている。また、「学習内容で分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができたか」でも県・全国平均を下回っている。
・平日の学習時間については、「３０分未満」また「全くしない」が県・全国平均を上回っており、平日の家庭学習が少ない現状がうかがえる。また、休日の時間学習についても、「１時間より少ない」また「全くしない」が多く、休日の家庭学習の時間も少ないという現状がうかがえる。

質問紙調査からの改善点

・困りごとや不安を、教員や大人に「どちらかといえば、相談できない・できない」と回答した生徒が一定数おり、配慮が必要である。連絡ノートや生活アンケート、二者懇談、授業で気づいたことの職員間での共有など、継続的に生徒理解に努めていく。
・知識を伝える教授だけではなく、他分野や横断的に活用できる考え方や調査・発表の方法、発想の仕方などを意識して授業を行っていく。
・意見を述べやすい教室の雰囲気（民主的な学級づくり）の中で、日常的に自分の考えを述べたり、まとめたりする機会を増やしていくことで、考えることに意欲的な生徒や自信をもって自分の意見を発表することができる生徒を育成していく。
・家庭学習に取り組む姿勢が弱く、学習が習慣化できていない状況がある。そのため、知識の定着や復習の機会が少なく、学力の向上につながりにくいと考えられる。一人一台端末の活用や、短時間で学習内容を復習できる教材（プリントなど）の用意、単元テストの導入などにより、家庭学習を促進する方策に取り組んでいく。